

令和元年度 第2回御殿場市総合教育会議

日時

令和元年11月29日(金) 午前10時00分

場所

御殿場市役所 3階大会議室

出席者

御殿場市長	若林 洋平	教育長	勝亦 重夫
教育委員	勝又 英和	教育委員	佐藤 朋裕
教育委員	芹澤 えつ子	教育委員	大西 孝明
教育委員	長田 光男		

陪席者

教育部長	教育総務課長
学校教育課長	社会教育課長
学校給食課長	学校教育課参事
学校教育課課長補佐	学校給食課副参事
教育総務課副参事	教育総務課主任
教育総務課主事	

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - (1) 令和2年度の教育予算について
 - (2) コミュニティスクール~どのように進めていくかについて
- 5 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。
定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第2回総合教育会議を開催します。
全体進行につきましては、教育総務課の鎌野が務めさせていただきます。よろしく
お願いいたします。
開会にあたりまして、初めに御殿場市長からご挨拶をお願い申し上げます。

2 市長挨拶

市長

皆様、改めましておはようございます。

本日は急に寒くなりまして、山中湖の方では雪が降ったそうですし、富士山も大分下の方まで雪が積もっております。そんな中お集まりいただきまして、第2回総合教育会議を開催できることをうれしく思います。

20回目の節目の年を迎えました市町駅伝では、子ども達が頑張る姿を見せてくれました。全国の駅伝大会も7年ぶりに御殿場中学校の女子チームが出場するというところで、御殿場市の子ども達は大いに活躍しているところです。

市町駅伝の最も素敵な場面は、選手だけでなく先生や、低学年の児童も一緒に練習しているという点です。そういった教育をしていただいている先生方には本当に感謝しております。本日の協議の前段は予算についてということになりますが、御殿場市でも実施しているSDGsの中には、当然教育の分野があります。平等な教育、良質な教育を謳っておりますが、誰一人取り残すことなく、しっかりと拾い上げる。つまり、障害のあるなし、得意不得意、色々な状況がある中で、どんな子ども達にも教育が行き届くように、しっかりと予算を組んでいるつもりです。子育ての保証というのは、医療費の補助や、学校では給食費の補助がありましたが、そういう目立つ施策だけではなく、教育にはお金を掛けなければならないと私は思っております。

委員の皆様には、色々ご教授頂きながら、ご協力いただきながら進めていくことだと思っております。是非、色々なご意見を頂きながら取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

二つ目の協議事項は、「コミュニティスクール」ということで現在、色々話題となっております。議会の方でも議員さんからご質問があったところです。まずは、コミュニティスクールとは何だという点で、そこをはき違えてしまうと違う方向に行ってしまうので、そういった点も含めて議論できればと思います。よろしく願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

3 教育長挨拶

教育長

皆様おはようございます。

今年度二回目の総合教育会議ですが、新教育委員会制度と一緒に立ち上げられた制度でして、回数を重ね大分定着してきているなど感じております。

学校の方は、あと一か月足らずで冬休みに入ります。行事の多かった二学期ですが、子どもの成長の姿を様々な形で感じ取ることができました。市長からもお話があったように、全国レベルで活躍する子もおり、該当校だけでなく御殿場市全体の明るい話題になったと思います。

最近、小学生が監禁された事件が報道されました。SNSに関わる事件が続いております。私自身、長年教員として学校現場にいましたが、色々な問題の質は変化していると思います。社会情勢の変化が色濃く反映されているのだと思います。変化する社会の中で、学校の姿はどうしていくのかという点について、後追いではなく先手を打っていく必要があるのではないかと感じております。

本日の協議の中に、コミュニティスクールがありますが、本市で進めております子ども条例行動計画の基本理念となっている、社会総がかりの子育てという点は、コミュニティスクールで活かされるのではないかと思います。

市長や教育委員、それぞれの立場で有意義な意見が出るのではないかなと期待しております。よろしく願いいたします。

教育長ありがとうございました。それでは、議事に入りたいと思います。

本日の協議事項は、「教育予算について」と「コミュニティスクール~どのように進めていくか~について」の2点と なります。

はじめに、協議事項（1）の「教育予算について」の意見交換をしていただくにあたりまして、教育部長から当市の教育予算に係る事業等の動向について説明をさせていただきます。

4 協議事項

(1) 令和2年度の教育予算について

教育部長

まず最初に、御殿場市教育委員会の予算について簡単にご説明いたします。

それでは、資料1の上段をご覧ください。この資料は、今年度の御殿場市の予算について表にしてまとめたものです。教育委員会の予算につきましては、市の一般会計の10款に区分されております。

平成31年度の予算では、教育費は全体の15.48%を占めております。民生費、土木費に続いて3番目となっております。民生費とは、福祉部門でも社会福祉、児童福祉、生活保護に使われている予算で、近年顕著に伸びている部門でございます。また土木費は、道路、公園、市営住宅等の社会基盤のハードを整備するための予算でございます。

以前の市の歳出予算といえば、土木費が1位、教育費が2位という状態が続いておりましたが、15年ほど前から民生費が教育費を上回るようになってきました。現在では年々増加する扶助費等の影響もあり土木費を超えているというのが、現在の福祉関係の予算でございます。

このあたりが、各地方自治体の財政費を悪化させているという要因であるとも考えられているところです。

続いて下段をご覧ください。このグラフは平成28年度から平成31年度までの教育予算の変遷を表しているものです。右肩上がりには見えますが、内容としては平成30年度に西中学校の校舎改築が始まったこと、平成31年度においてはエアコンの設置工事が始まったことにより増加しております。来年度以降につきましては、西中学校の改築やエアコン設置工事も終わるため、減少に転じていくものと思われれます。

次に、来年度以降の主な主要事業について説明させていただきます。

小学校中学校の校舎関係でございますが、朝日小学校と南中学校については今年度から内部工事に着手し、来年度末の完成へ向けて事業を進めていきます。

ICTやコンピュータ関係では、従来からのパソコン教室でのパソコン配置から、タブレット端末、明るくても黒板に投影できるプロジェクタ投影へと変化していきませんが、先ごろ国が一人一台パソコンの整備方針を打ち出したことから、今後の成り行きに注視していきたいと考えております。

発達障害児等の支援の必要な児童・生徒の人数につきましては、引き続き増加傾向に

あるため、予算的にも増加傾向となっております。

外国人英語指導者配置事業につきましては、先日の御殿場小学校中学校の研究発表を視察頂いたことからわかる通り、その成果は絶大なものです。今年度1名増やして頂き10名で対応しております。

更に昨年度の総合教育会議でもあったように、市長の英語教育への深い理解の元、来年度は12名体制で実施できるかと考えております。

図書館等の整備については、基本構想策定も2年目に入り、再来年以降の基本設計の礎として使用できるよう策定を完了させます。

西学校給食センターについては、今年度PFI導入可能性調査の実施を完了しますので、来年度はアドバイザー契約を締結し、事業実施に向けて一歩踏み出すような感じになります。

以上簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

教育総務課長

部長ありがとうございました。これより先は市長の進行でお願いいたします。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

市長

資料1をご覧ください。先ほど、教育部長から説明があったように、教育費全体を見てみますと学校の施設の改修等によって予算は増加しております。もっとも、施設に関することでもとても重要なのですが、もっとも重要な点は別にあります。

学校教育支援事業を見て頂きたいです。この中で相談事業や外国人児童指導事業、発達相談時支援事業等の項目があり、支援を要する方達への予算項目といえます。この予算が右肩上がりということが非常に重要なことです。平成28年度から平成31年度までの推移を見てみると、金額だけでも3000万以上増額しております。

その辺を踏まえたうえで、委員の皆様からのご意見を頂きたいと思っております。

佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員

教育に関する事業計画については、着実に進んでいるものと認識しております。総合教育会議を経ることによって、市長との意思調整が図られているものと考えております。御殿場市の子ども達がより良い教育を受けられるようにと、市長が教育に対して幅広くかつ熱心にご対応頂いていることについて深く感謝をしております。

現在、小中学校の校舎改築事業を始め、ICT機器等の環境整備の推進も計画に基づき進められております。引き続きご尽力いただきたいと思いますと感じております。

子どもの安心・安全な環境については、過去の総合教育会議の中でも、市長と教育委員で活発に意見交換が出来ていると認識しております。その中で、小中学校のエアコンの設置についても、厳しい財政状況の中だが子ども達の命には代えられないという回答をしていただき、今年度中に全校への設置が完了するとのことで、子ども達も感謝していることと思います。

今年度の第一回の総合教育会議にて、外国籍の児童生徒と保護者についてのテーマで協議いたしましたが、その中で学校とのコミュニケーションがとりにくい状況にあることを確認しました。解決策の一つとして、指導員数の増員という案がありました。この予算についても力を注いで頂きたいと思います。外国籍の保護者に対しても、寄り添った支援をして頂きたいと思います。

教育費全般については、次の世代を担う子どもの健全な育成推進のために、着々と進めて頂いておりますが、なお一層拡充を図ってもらえればと思います。

市長のお話にもありましたが、明日は第20回の市町駅伝大会があります。御殿場市は昨年度に引き続き優勝することを、市長をはじめ市民一同が期待しているところで、駅伝は、小学生、中学生、高校生、そして大人へとしっかりと襷をつないでいくものであります。教育費も同じであり、次の世代のために教育費を投資して展望ある未来へとつなげて頂きたいと感じております。

市長

ありがとうございます。まさに、そこが重要だと思います。先ほど伝え忘れたのですが、西中学校もブラスバンドで全国大会へ出場します。是非是非、こちらも応援して頂きたいと思います。ブラスバンドについては、同じ中学生にこそ見て頂きたいと思います。同じ中学生がここまでできるということ直に見てもらうことで、刺激にもなり、また西中学校の生徒の自信にもつながります。そういう機会があれば良いなと思います。

長田委員よろしく申し上げます。

長田委員

初めての総合教育会議ということで、どうぞよろしく願いいたします。教育予算について、見識も知識も多く持ち合わせてはおりませんので、日頃感じていることを述べさせていただきたいと思っております。

先進国の中でも日本という国は、最低の教育費と言われております。当然、財源があるうえでの話だと思いますが、教育に必要な予算は、当然配当されるべきだと私は思っております。

財産区のある御殿場市では、市長の教育に関する想いが施設等に反映されており、大変充実しているなどと思います。人が人を育てる以上、多忙を極める教員の支援のための経費が特に必要なのではないかと考えます。先日、県の市町教育委員研修会に出席いたしました。事務次官のお話の中で、子どもの為ならという想いで、先生方は仕事をしているとのお話でした。県では学校の働き方改革「夢プロジェクト」の成果を還元して、スクールサポートスタッフの配置や、共同学校事務室の設置等、様々な改革を行っているというお話でした。その中で、特に18時以降の留守番電話の設置は非常に効果が大いとのアドバイスを頂きました。

先生方の指導力向上のために教育指導センター事業の増強も必要かと思えます。子どもの為ならという想いで仕事をしてくださっている先生方の為に、今後も惜しみなき支援をお願いしたいと思います。

市長

ありがとうございました。研修お疲れ様でございました。事務次官のお話についてですが、県の教育長は解って頂いていると思いますが、一番お金を出していないのは県です。もっとも県も厳しい立場にはあります。そもそも国が教員の人員について約束を守っていないのです。だから、学校の現場はますます厳しくなる。我々からすると、どうにもならないことを言っているかもしれないので、市費のみの支出でやっていくしかありません。もっとも、長田委員のお話にもあったとおり、御殿場市は財産区の協力もあり、本来であれば市費のみで対応しなければならないことも、一緒に対応してもらっています。

では、他の市町はどうなんだというと、かなり悲惨な状態です。これは医療と同じ状況です。国全体としてどうなのだということです。このお話については、私はしっかりとメモしましたので、県の教育委員会が子どもの為にというのであれば、本気で国とぶつかってもらうように伝えたいと思います。貴重な研修成果をお聞きできたので、次回の首長会議の中でしっかりと伝えていきたいです。

教育長お願いします。

教育長

長田委員のお話のとおり、先進国の中で日本は教育予算が下から数えた方が早いという事実があります。当然、現場からの声は上がっておりますし、市からも声は上がっております。教育長会などでは、現状を踏まえて予算を確保するようにと働きかけをしております。すぐに状況が変わるとは思いませんが、働きかけは続けていきます。

市長

人員を確保するという事は、お金を出すということで、その人がいない場合には、地域で人を出す必要があります。それには予算が必要になります。本来は人を出すべきですが、それが出来ないのであれば、現場の意見をしっかり聞いて、各市町に手当する必要があると思います。

芹澤委員お願いします。

芹澤委員

発達障害児の支援事業についてお話しさせていただきます。資料からも特別支援教育や、発達障害児支援事業における教育費が年々増加していることがわかります。今年度御殿場市は知的クラス・情緒クラス併せて182名の児童・生徒が特別支援学級に在籍しております。また通常学級における支援を要する児童・生徒は1クラス当たり8%から9%の割合で在籍しているとのことでした。先日教育長とお話しさせて頂き、特別支援学級については、当然教員免許を有する先生がご担当されていますが、特別支援学級を受け持つ際に、特別支援教育に関する研修はないとのことでした。おそらく、担当される先生方はご自身で情報を収集され指導にあたっているのではないかなと思います。子どもを持つ親として、特別支援学級に通わせるということは、子どもの将来を見据えて、熟慮して決断された保護者様が多いのではないかなと思います。支援学級で学ぶことを選択された児童・生徒・保護者が、ここで学べて良かったと今以上に思っていたら、先生の研修の開催や、専門知識を有する方に関わって頂くことで、先生の指導向上や、児童生徒がもっている個々の力をさらに高めることができるのではないかと感じております。

また、普通学級に在籍する支援を要する児童生徒の対応には、担任の先生以外にも支援員の存在が不可欠です。御殿場市では市単独雇用の支援員を15名雇用しております。私も子ども達の参観日などで学校に伺った際には、支援員の先生がクラスにとけ込み、サポートをしている姿を何度か拝見しました。低学年の間に手厚く対応して頂いていることで、高学年になると落ち着いて授業に取り組む様子を目にします。これは、先生方が根気強くご指導して頂いた結果です。ペースは一人ひとり違いますが、子ども達は着実に成長していくのだと感じることが出来ます。

また、こういった場でよく目にするのが、同じ年齢の子ども達が自然とサポートしている姿です。特別なことではなく、当然の事のようにサポートする姿を見ると、とても温かい気持ちになります。お友達を通して、子ども達も様々なことを学んでいる

のではないかと思います。

私は給食関係の仕事で学校に勤務していた時期がありました。その際に、授業中の廊下で児童を見かけたことがありました。しばらくして先生が探している姿もよく目にしました。私は常勤ではありませんでしたので、このようなケースは稀なものなのかもしれませんが、皆無なのではないというも事実だと思います。

先ほども申し上げましたが、通常学級に在籍する支援を要する児童・生徒は8%から9%といるとのことでしたので、教室における担任の先生方のご苦勞も見えてきます。

すべての子ども達が笑顔で登校し、すべての保護者が笑顔で送り出せるよう、先生方が先生らしくいられる環境整備について、更なる充実の必要性を感じております。

市長

ありがとうございます。ひしひしと伝わってくるご意見でした。現場で働いている先生が、先生らしくできない環境は変えていかなければならないし、それぞれの子ども達の個性を大事にしてくことは当然です。障害についても分かり合える子ども達を育成することが本当に大事なことだと思います。

たまたま給食のお話がでたのでお話ししますが、給食費の補助を議会において何とか議決いただきまして、4分の1補助からのスタートになりました。給食費は物価の上昇も含めて上げなければならない中で、保護者の負担を軽くするために補助しております。給食を食べる会があるのですが、子ども達に最近給食について聞いてみると、「おいしいし、量が増えた」と言っていました。これは当然で、今までぎりぎりで行っていた学校給食に余裕が生まれ、より良い給食を提供できるようになったのです。単純に費用が上がっただけではなく、おいしい給食を提供する努力をしてくれています。これはすごく大事なことです。給食は楽しい時間でなければならず、家に帰ってからの話題にもなります。

こういったことも含めてしっかりとやっていきたいです。

勝又委員お願いします。

勝又委員

毎年御殿場市から多くの教育費を頂き感謝しております。その中でも校舎改築等かなりの金額が動いております。教育の話で真っ先に思い浮かべるのが、環境の改善です。施設関係については目が行きます。小さな施設を含めれば、市内に教育関係の施設は120程あります。これらを管理することは本当に大変だと思います。御殿場市は、静岡県の中でもかなり早期に耐震診断を実施し、耐震補強を終了しております。

子ども達の安全や地域への貢献の為に早期に対応していただきました。

もっとも対応年数を考えると、当然どんどん経過していく訳で、補強も大切ですが、改築も必要になっていくと思います。棟数を考えるとかなり膨大な事業になってくるのではないかなと不安を覚えます。

また、子ども達の教育環境で地域格差が出やすいのかなと感じます。教材等含めて、地域格差が生じないように心がけていければと思います。

学力向上についても、市の方でも指導対策をとっていただいておりますが、その中で教職員のスキルアップもあると思います。これは教育指導センターのますますの充実を図ることで、新規採用教員をいち早く、先輩教員と同じレベルまで引き上げ、先輩教員については更なるレベルアップを図ることで、子ども達に還元されるのではないかと思います。是非、教育指導センターの拡充について、引き続き充実を図って頂ければと思います。

年々、児童・生徒数は減少傾向にあります。就学援助制度を利用する世帯は横ばいかやや右肩上がりなのかと思います。様々な要因はあると思いますが、今後ウェイト的には重くなってくるのではないかと思います。

市長

ありがとうございます。建物については、学校に限らず、道路等も含めて長期間の計画の中でやっていくことです。どこの自治体もそうですが、将来どの程度費用がかかるのかを算出して、計画的に実施していかなければなりません。現在、新しい建物については、よっぽどの理由がない限り増やさないととなっております。現在建築されているものを、補修し管理して長く使えるように整備する時代になると思います。これは御殿場市だけでなく、国、県、他の自治体もそういう時代だと思っております。そういった意味で、きちんと管理しながら、計画に沿ってやっていく必要があります。もっとも、御殿場市はこれに関しても、財産区がご協力していただいておりますので、非常にありがたく思っております。

地域格差については、立場上ないとは言えません。財産区のない地域についても格差が生じないように努力しております。多少の違いはあれど、対応できているともいます。ただし、隣の市とは明らかな格差があります。他の市町の議員さんや市長さんは、御殿場の教育環境についてびっくりされます。そういった事実を意外と御殿場市民に周知されていないのです。それが当たり前になっているからだとは思いますが、耐震性さえ怪しい施設が、他の市町にはあります。

新規採用教員のレベルアップについては、教育指導センターの拡充を図っていく必要を感じております。大事なことと認識しております。

教育長お願いします。

教育長

毎年、新規採用教員は20人程採用されます。どのように指導していくべきかは課題です。授業の質は子ども達の学びに直接かかわるものです。引き続き新規採用者の指導に力を入れていきたいです。新学習指導要領になったことで、今までの知識重視から、どのように学ばせるかが重要視されていると思います。引き続き委員会でも検証をしていきたいと考えます。

市長

ありがとうございました。大西委員お願いいたします。

大西委員

I C T整備計画がどんどん進んでおります。現代人は携帯電話を使用する頻度が非常に高く、特に授業ではタブレットやP Cはどんどん普及していく傾向にあります。これ自体は良いことだと思いますが、目に対する影響が気になります。

私自身、二十歳のころからパソコンを使用しておりますが、60歳くらいの時にブルーライトの影響で目の病気になりました。

育児は非常に大変なので、子ども達にスマホを見せて対応する保護者が増えているようですが、家庭でもスマホを見て、学校でもタブレットを見てという状況について不安を感じます。ブルーライトをカットするフィルムなんかは安価で購入できますが、必要数が膨大なため高額になります。だとしても、目の健康は一生ものなので、そういった健康の側面も視野に入れながら予算立てて行って欲しいと思います。

市長

ありがとうございました。ブルーライトへの対応についてはしっかり検証していきたいと思います。健康被害に面を考えると、子ども達へスマホを渡すのは良いとは思えません。当然I C T環境は整備すべきなのですが、長時間熱中して見ってしまうので、知らないうちに目の健康が害されてしまいます。また、ゲーム依存症についても怖いものがあります。便利なものが増えることで、それに伴う障害も増えてきます。しっかりと対応したいです。

(2) コミュニティスクール～どのように進めていくかについて

教育総務課長

二つ目の協議事項についてですが、コミュニティスクールということで簡単に学校教育課長よりご説明させていただきます。

学校教育課長

それでは、コミュニティスクールについて簡単にご説明させていただきます。コミュニティスクールとは一言で言えば、学校運営協議会が設置されている学校を言います。

それでは学校運営協議会とはどのような役割を持つのかということ、大きく三つが挙げられます。一つは校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。二つ目は学校運営について教育委員会または校長に意見を述べるができる。三つ目は教職員の任用に対して、教育委員会に意見を述べるができる。三つ目に関しては、かなり誤解を受けてしまうのですが、教職員の任免に関する権限があるということではありません。例えば、英語教育を進めたので、英語指導員が必要であるとうの意見が出来るというものです。

ではコミュニティスクールにどのようなメリットがあるのかということ、①組織的・継続的な体制の構築、すなわち持続可能な学校経営が可能となります。教職員の異動に左右されることなく、地域との組織的な連携・協働体制がそのまま持続できる「持続可能な仕組み」です。②社会総がかりで子ども達を育成できます。地域住民に当事者意識を持ってもらい、子ども達の課題に向き合い、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」します。③目標・ビジョンを共有した共同活動ができます。校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通して、学校や地域、子ども達が抱える課題に対して関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができます。

説明は以上となります。

市長

ありがとうございます。委員の皆様からご意見を頂きたいです。

勝又委員お願いいたします。

勝又委員

今現在、評価委員というものがあり、運営委員会に参加させて頂いた経験もあります。コミュニティスクールについては、学校側が基本方針を出し、これに対して協議会が承認をするという流れになっています。承認があるかないかが大きなポイントかなと思います。基本方針を協議会の中で話し合っ決めて決める形ですと、ちょっと違うのかなと思います。PTAなんかはそうなんです、役員の負担がものすごいことになっております。協議会の中で意見交換などをするのだと思いますが、年に数回行う必要があると思います。それなりの労力が必要になってくると思います。ただし、基本方針は校長がされるということなので、負担も少ないのかなと思います。

懸念されるのは、協議会が学校への要望を伝えるだけの場になりやすいのかなという点です。

現在の評議会との違いがあまりないのではないのかなと思いましたが。現在の評議会の中でも学校運営に関して意見を述べることは可能です。その意見を採用するかしないかは学校側の判断なのですが、意見を言えないわけではないです。この点については同じかなと思います。なおかつ、評議員の主体的かつ能動的に取り組んできております。そういう点を考えると、明確な違いが見えてきませんでした。

市長

ありがとうございます。大西委員お願いします。

大西委員

私は区長をやっていた時に、特別支援学校のコミュニティスクールのメンバーでした。資料に記載されている内容に近いことをやっておりました。

コミュニティスクールが地域住民と学校が意見交換していくという点で、地域としては解りやすいのではないかなと思いました。

市長

芹澤委員お願いします。

芹澤委員

頂いた資料には、未来を担う子ども達の成長のために、社会総がかりでの教育の実現が不可欠であり、開かれた学校から一歩踏み出し、地域と共にある学校へと変換し

ていくことを目指した取り組みを推進していくと明記されております。御殿場市は子ども条例行動計画が整備され、社会総がかりで子育てをしていくことは進んでいっておりますので、ベースとなる骨組みは整っているのかなと思われました。

保護者としては今一度、子ども条例行動計画を市民へと周知する必要があるのではないかと感じます。子ども条例について御理解頂くことで、コミュニティスクールについてもご理解いただきやすくなるのではないかなと思えます。リーフレットの再配布も良いとは思いますが、例えば保護者には、年度初めに行われるPTA総会の資料に条例の抜粋を盛り込んで周知することも考えられます。

年度初めのPTA総会は、すべての保護者が一堂に集結しますので、周知には効果的な良い機会なのではと思えます。

市民や地域団体、事業者については、地域の広報誌の巻末などに条例を盛り込んでいくことで、条例が制定されていることを改めに認識していただく機会になるのではないかなと思えます。

コミュニティスクールが実施され、学校運営協議会が設置された際に、この会には保護者や有識者等、様々な立場の方々にご参加いただくことになると思えます。市民の皆様の声が代表者を通して、学校に反映されることになると思えますので、一人ひとりに意識を持って頂くことが重要なのだと思えます。

本格的に実施された後も、子ども条例と同様に定期的な周知は必要であると思えます。

市長

ありがとうございました。子ども条例については、ご意見頂いた通り、周知に力を入れていきたいです。せっかく整備した条例も、市民が知らなければ意味がありません。地域の方たちにコミュニティスクールにご協力頂くためにも、ご理解いただくことが重要だと考えます。

長田委員お願いいたします。

長田委員

地域と共にある学校ということで、子育て支援日本一、社会総がかり計画等、御殿場市の条例や計画を推進していく意味で、コミュニティスクールは非常に重要だと思えます。関わる方たちの意思と活動が重要です。この計画の詳細について、まずは周知していくことが必要であると思えます。コミュニティスクールの内容は、学校の先生方には理解しやすいかもしれませんが、地域の方々には難しいのではないかなと思えます。市の中でしっかりと説明できる部署を作るべきであると思えます。

コミュニティスクールが安心・安全な街づくりに非常に向いていると思います。御殿場市の学校のほとんどは被災所に指定されておりますので、有事の際の避難所の運営において、地域連携は非常に重要です。

明後日は地域防災訓練があります。この訓練は長年行われておりますが、想定が自宅で被災した場合のものです。ほとんどの地震は夜間に発生しておりますが、東日本大震災は授業中のものでした。当然子ども達は学校管理下におりました。そういったことを考えますと、予行演習をやるうえで、地域の安心安全の拠点としてコミュニティスクールというのは、訓練として活用できるのではないかなと思います。例えば引き渡し訓練を、先生のみでなく子どもの顔が分かる地域の方に協力してもらったあたり、帰宅訓練を交通安全指導員や見守り隊の方も一緒に行うといったことも可能になるのではないかなと思います。

全然違う視点からの話になりますが、地域が抱える課題の中に、猛暑によって地域の体育祭が中止になってしまうことがあります。また、体育祭の為に選手を探すのが非常に大変であるという話を聞いております。少子化や地域協力への意識が希薄であることが問題点だと思います。これらのことを解消するのに、コミュニティスクールが活用できるのではないかと考えます。例えば、印野地区なんかは実施しておりますが、地域と学校の合同運動会や、新しい地域行事の実施なんかも可能なのではないかなと思います。

子ども達がどのような課題を抱えて、地域でどのような子どもを育てるのか、何を実現させるのかというビジョンを学校と共有することで、新しい時代の地域社会を創生できるのではないかと考えております。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。私もこれを見た時に思い浮かんだのは、印野地区の体育祭です。正にコミュニティスクールなのだと思います。子ども達も地域の大人に見てもらえるという点で、頑張りがいもあると思います。富士岡地区でいえば公園祭りもありますし、板妻区の防災訓練では、最後に原里小学校の体育館で実施します。

地域の方々と先生方の顔が見えるという点でも有効なものと思います。

佐藤委員お願いします。

佐藤委員

社会の目まぐるしい変動の中で、子ども達をとりまく環境も変化してきているのだと実感しております。これからの本市の学校教育がなお一層の柔軟な思考を持って対応する時代に突入したのだと思います。御殿場市の子ども達が故郷に愛着を感じて、また社会にでた時の総合力を備えて、真っ当な大人になって欲しいということは市民全体の願いであると思います。

次の世代を担う子ども達のため、学校、保護者、地域住民がお互いに情報や課題を共有して、教育活動を進めていくことは必要不可欠なことだと思います。

当市では、子ども条例行動計画が既に整備されておりますが、芹澤委員のお話にもあったように、周知徹底されているかという点では疑問が残ります。コミュニティスクールは、御殿場市子ども条例、同行動計画の趣旨に沿っているものだと私も思います。社会総がかりで、地域の子どものは地域で育み、学校運営に還元してくべきものと考えます。

当面の進め方については、数多くの案があるとは思いますが。現在の評議会なんか抱える課題なんかを共有していくといった進め方もあるのではないかと思います。御殿場らしいコミュニティスクールの導入が出来ればよいと思います。

市長

最後に教育長一言お願いします。

教育長

学校の歴史を鑑みると、地域づくり人づくりの観点から学校が生まれました。途中から敷居が高くなり、学校に入りづらいという時期もありました。その中で開かれた学校という考えが生まれ、地域に対し学校を開き様々な意見を聞いて学校へ持ちかえるということを現在実施しております。これより更に踏み込んだのがコミュニティスクールです。悩みや課題を地域と共有して、子ども達を育てていくという趣旨です。

現状、地域コミュニティの性質が変化してきており、ひと昔に比べ協力体制が取りづらいのは事実です。学校が中心となって地域のコミュニティを再構築するという可能性もあると思っております。

今後の学校や地域を考えますと、この制度を導入して地域の方々が関われるような組織づくりを実施したいと思っております。

ありがとうございました。

国が推奨するコミュニティスクールの方針沿って行くのも良いですが、御殿場市は御殿場市のコミュニティスクールが良いと思います。コミュニティスクールにおいて、地域が邪魔をしてはならないと思います。地域はサポートする立場なので、結果的に先生の負担を増加してはならないのです。地域が教職員を評価する形では、先生は先生らしく指導することはできないと思います。

いい形で御殿場型コミュニティスクールが導入されれば良いと思います。大事なのは現場であって、これをやったから良いでしょうということではありません。

家庭があって、地域があって学校があるので、その順番を間違えると先生は疲れてしまうと思います。先生らしくなくなってしまう。これ以上先生を苦しめてはならないのです。

学校をしっかりと支えてくれるコミュニティスクールを期待したいと思っております。

様々なご意見を頂き、とても有意義な会議でした。楽しくお話することができました。予算についてもしっかり対応していきたいと思います。ありがとうございました。

5 閉会

教育総務課長

皆様、活発な意見交換をありがとうございました。

本日皆様よりいただきましたご意見等につきましては、今後の教育委員会の運営に反映させるよう努めてまいります。本日の協議につきましては以上となります。

それでは、市長、教育委員の皆様、長時間にわたるご協議、誠にありがとうございました。以上をもちまして今年度の第2回総合教育会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。

傍聴の皆様、お疲れ様でした、また傍聴ありがとうございました。

午後11時50分閉会
